

(電子メール施行)
農 技 第 1204 号
平成 29 年 6 月 28 日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成 29 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を下記のとおり発表します。淡路地域のビワ園地でビワキジラミを本県初確認しました。

* 特殊報とは、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表する情報です。

平成 29 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

1 病害虫名 ビワキジラミ *Cacopsylla biwa*

2 対象作物 ビワ

3 発生地域 淡路地域

4 発生経過

ビワキジラミは、平成 24 年に徳島県で初めて発生が確認されたビワの害虫で、果実や葉に「すす病」を発生させる。徳島県内で本種の分布域は拡大しており、香川県でも平成 28 年に発生が確認されたことから、本年 5 月に淡路島のビワ園地を調査した。

淡路島南部のビワ園地 2 カ所で本種と考えられるキジラミの発生が確認され、農研機構果樹茶業研究部門によりビワキジラミと同定された。そのうち 1 カ所で、僅かだが「すす病」の被害果も確認された。発生園地付近にある道路脇のビワ樹でも本種の発生が確認された。淡路島北部のビワ園地では、発生は確認されなかった。なお、本種の発生は、徳島県、香川県について、3 例目である。

5 形態及び生態

(1) 成虫はセミを小さくした外観(写真 1)をしており、発生時期により、体長や色彩が異なる。4～6 月に発生する春夏型は小形(成虫の全長:2.3～3.2mm)で、体や前翅外縁に淡黄褐色の斑紋がある。10 月～翌 3 月に発生する秋冬型は春夏型より大形(成虫の全長:3.0～3.8mm)で、体や前翅外縁の斑紋が濃くなる。いずれの季節型も胸部に黄白色の縦条や小斑紋があり、頭部や腹部はしばしば緑色を帯びる。触角の長さは頭幅の 0.8～1.2 倍と、日本産の同属他種より短い。幼虫は扁平で、淡い黄褐色～黄緑色をしており、腹部の一部や翅芽(羽になる部分)などが褐色である(写真 2)。

(2) 本種の生態は不明な点が多く、年間発生世代も明らかでないが、井上(2015)によると、本種による被害は4～6月に多く、幼虫は花芽の基部や果梗、芽鱗の下などのすき間に隠れて生息する。この時期に羽化する成虫は、主に葉裏の主脈にそって群生し、体色は葉裏の毛に色彩が酷似しており、視認が難しい(写真3)。その後、分散し、8～9月の盛夏期はほとんど圃場でみられなくなる(この時期の生態は不明)。9月下旬以降、再び、ビワの花芽に多数の卵が観察されるようになり、翌春までビワ樹上で世代を重ね、増殖する。なお、ビワキジラミの寄主植物は現在のところビワのみである。

6 被害

果実肥大期から成熟期の4～6月に、主に幼虫が排出する甘露や白色ロウ物質が付着し、果実や葉の表面にすす病が発生する(写真4)。

7 防除対策と注意点

(1) 葉裏に寄生した成虫を探すか、すす病の発生を目印として発生を確認する(5～6月が発生を確認するのに適している)。発生が確認された園地では、寄生虫数や被害程度の変化に注意し、発生推移を把握する。

(2) 薬剤防除を実施する場合、以下の点に注意する。

ア 本種の生態は不明な点が多く、要防除密度も明らかになっていないため、薬剤防除を実施するか判断が難しいが、発生が多くなる秋から袋かけ作業前までに、登録のある剤(別表)を散布するのが効果的である。

イ 幼虫は花芽基部などの隙間に隠れており、薬剤が直接虫体にかからないと防除効果が低いとの事例がある。また、ビワ樹への薬剤散布は樹形や立地条件から非常に困難であること、植物体表面が細かい毛に覆われて薬液をはじきやすいこと等から、薬剤防除をする場合は展着剤を加用し、花芽基部などの隙間への散布漏れがないように散布する。

ウ ハナカメムシ類など天敵類が本種を捕食していると中西ら(2015)の報告にある。薬剤の影響で天敵類が減少し、上記のような丁寧な散布が行えない場合は、かえって被害が助長される可能性も考えられる。

表 ビワのビワキジラミに登録のある薬剤(2017年6月1日現在)

薬剤名	成分名	使用時期	使用回数	希釈倍数
スカウトフロアブル	トラロメトリン	収穫3日前	3回	2000倍
アルバリン顆粒水和剤 スタークル顆粒水和剤	ジノテフラン	収穫前日	2回 [※]	2000倍
オールスタースプレー	ジノテフラン	収穫前日	2回 [※]	原液

※ジノテフランとして2回以内(例:アルバリンを2回散布したらオールスターは使用できない)

8 問い合わせ先

兵庫県内でビワキジラミを確認された場合は、当所へ情報提供をお願いします。
兵庫県病害虫防除所（加西市別府町南ノ岡甲 1533）
電話番号：0790-47-1222

（出典）井上（2015）：植物防疫 69、97-101

中西ら（2015）：植物防疫 69、102-105



写真1 ビワキジラミ成虫



写真2 ビワキジラミ幼虫



写真3 葉裏の主脈に生息している
ビワキジラミ成虫（赤丸）
※背景と同化して発見しにくい



写真4 ビワキジラミによる被害果
（果実・果梗の表面が黒いすす状になる）

（写真2,4：農研機構提供）